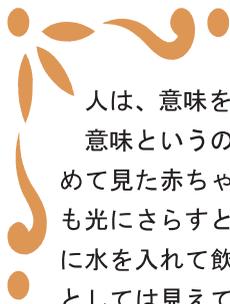


## ありのままを生きる



人は、意味を充満させた世界に生きています。

意味というのは、そのものに対する振る舞い方だと思ってください。鉛筆を初めて見た赤ちゃんにとっては、鉛筆はただの棒です。あるいは、コップについても光にさらすとキラキラするというような物理的な特性は目で見えますが、そこに水を入れて飲むものだということは分かりません。生理的な感覚を味わうものとしては見えていても、そのものの意味は見えないということからスタートしています。そこから大人のようにすべてのものに意味を張り巡らして生きる。だからこそ安心して生きることができるのです。

人は、このように意味の世界に生きています。では、自閉症の子どもはどんな世界に生きているのでしょうか。

自閉症の子どもがあるものにこだわるというとき、こだわったものには、少なくとも本人なりの意味付けがなされている。「そんなことにこだわっているから世界が広がらないんだ。」という形で周りの大人たちが強引にそこから引き離して、「こちらの方でもっといいことがあるから。」と善意で引き寄せたとして、子どもの側から考えたときにどういうことになるのか。そこでパニックを起こすことはやむを得ない。そのことを理解しないで強引に「こちらの世界が本当の世界だ。そっちはやめて、こっちに来なさい。」とやっているかもしれない。そういう目で見てほしいなあと思います。

こだわっているというのは、少なくともその子どもにとってはそこに本人なりの意味があるからです。つまり、安心してその振る舞い方が分かっているものと考えることができる。逆に言うと、私たちにとっては意味があると思っていることが、子どもにとってはそう見えていないかもしれません。ものの意味が見えないところに生きているというのは実に不気味な怖い世界です。

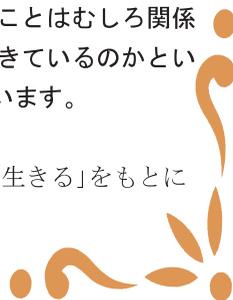
人はみな同じ地球上のこの世界を生きていて、お互いにかかわって生きています。しかし、自閉症の子どもたちも私たちと全く同じ見方をしているかのように思い込んでかかわるということは、実はその子どもたちを理解していないということになってしまう。

自閉症の子どもは相手の視点に立ってみるといことが非常に苦手です。逆に

私たちは自閉症の子どもの視点に立って、その子どもたちがどう生きているのかを考えることが少なくともできます。そういった努力をすることでお互いの関係を楽にしてほしい。大切なことは、その子どもたちをこちらの世界に強引に引き寄せようとするのではなくて、お互い歩み寄り、折り合いを付けながら生きるということだと思います。

ありのままを生きるということは、非常に難しいことです。自分たちの世界に引きずり込んだ方が楽そうに見えるんですけども、実はそのことはむしろ関係を悪くすることになる。そのためにも彼らがどういう世界を生きているのかということを経験者の側から見る努力をぜひやってほしいと思います。

2006. 6. 12開放講座浜田寿美男「ありのままを生きる」をもとに



# お わ り に

この本を手にしてくださったことに対して、まずお礼を申し上げます。

障害の種別や、障害の有無にかかわらず、ユニバーサル・デザインを基盤にして、幼稚園・保育所等に通うすべての幼児が笑顔で楽しく暮らし、保護者を含む保育者が安心して子育てをし、地域全体が見守り育てられることを目標にして、できる限り「分かりやすさ」にこだわりました。

本書は、保育に携わる先生方だけでなく、保護者や地域の方々、そして保育の先にある学校教育の場面においてもヒントになると思いますので、ぜひご一読いただき、ご示唆いただければ幸いです。

今後もさらなる研鑽を積み、奈良県における特別支援教育の充実に努めてまいります。

## 監修

井上 雅彦 (兵庫教育大学 発達心理臨床研究センター 助教授)

## 執筆者一覧 (所属・職名は平成18年3月現在)

井上 雅彦

桜井 直子 (磯城郡田原本町立田原本幼稚園 教諭)

杉岡 榮子 (広陵町立真美ヶ丘第二小学校附属幼稚園 教諭)

後藤 晴子 (香芝市立下田幼稚園 教諭)

## 特別寄稿

浜田寿美男 (奈良女子大学 教授)

特別支援教育ガイド1  
新しい学びの創造～幼児編～

平成18年3月 印刷・発行

編 集 奈良県立教育研究所

発 行 奈良県立教育研究所  
〒636-0343 奈良県磯城郡田原本町秦庄22-1  
TEL. 0744-33-8900 FAX. 0744-33-8909  
URL <http://www.nara-c.ed.jp/>

